学 位 論 文 内 容 の 要 旨

		要　　旨
学位申請者	孫　怡 【人間発達科学専攻　平成１９年度生】	本論文では，近年，日中大学間の連携が進み，交換留学制度で来日する中国人留学生が増加していることを社会的背景とし，Berry の異文化適応理論と Hobfoll のリソース理論を踏まえて，留学生のパーソナリティ特性の視点から，在日中国人留学生の異文化適応について検討が行なわれた。①留学志向者のパーソナリティの特徴，②異文化体験によるパーソナリティの変容，③異文化適応の実態，④異文化適応に影響を及ぼすパーソナリティ要因及びそのメカニズム（パーソナリティと異文化適応の間における内的・外的リソースの媒介作用）の 4 点を検討することを具体的な目的とし、留学直前から留学 1 年後まで在日中国人留学生のパーソナリティ特性，内的・外的リソース，異文化適応に関する 3 時点の追跡調査を実施し 9 つの研究から実証的に検討した。主な知見は以下の通りである： １） 留学志向者のパーソナリティ特徴の検討から、留学というリスクの多い道を選択する人のパーソナリティにおいて、①リスクやストレスから回復しやすい、②目標達成するまで諦めない、③意志や責任感が強い、④社会受容性や協力性が高いといった強みが見出された。 ２） 異文化環境に適応していく過程で多くのパーソナリティ特性に有意な変化が見られたが、留学１年後はやや回復するという傾向が観測された。 ３） 在日中国人留学生の適応状態について留学 1 年目の適応状態を追跡観測した結果，社会文化的適応は滞在期間が長くなるにつれて向上する一方，心理的適応は低下する傾向が確認され、社会文化的適応と心理的適応は異なるプロセスを経る可能性が示唆された。また因果関係の分析によって，留学前の新奇性追求，損害回避，固執および自己志向が留学後の適応状態を予測することが明らかになった。 ４）異文化適応におけるリソースの働きを検討した結果，パーソナリティと異文化適応おける内的リソース・外的リソースの媒介作用が検証された。 以上より， Ward（1996）による異文化適応の分類理論や異文化受容理論（Berry, 2006）の検証と発展に貢献し、Hobfoll (1989)によるリソース同士の相互影響を実証することが出来た。一方，適応状態の変化とともに，１年目の間に留学生のパーソナリティにおいても変化が見られ、それが１年後には元の水準に戻る U 型曲線傾向が示唆され，パーソナリティの発達性と安定性に関する研究に新しい知見を提供した。
論 文 題 目	在日中国人留学生の異文化適応に関する研究 ―パーソナリティ特性の視点から	
審 査 委 員	（主査）　教　授　　菅　原　ますみ	
	教　授　　内　藤　俊　史	
	教　授　　大　森　美　香	
	准教授　　上　原　　泉	
	教　授　　宮　尾　正　樹	